

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 4月28日

事業所名 発達支援センターとんぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	定員総定数以上のスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	定数以上に配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	75%	ソフト面でフォローします。	手すりを付ける、段差部分で介助をするなどソフト面も含め対応しますが、構造上の限界があります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	法人単位、事業所単位でも定期的を実施しています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者の意向を生かして反映するために評価表を活用しています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%	第三者評価が出来ていません。	法人間での報告と合わせて、評価の検証の機会を作りたいと思います。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	とくに感染症対策、権利擁護、発達保障について機会を作っています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者からのききとりや状況把握に努めて計画化しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	統一したシートを使って変化を把握するようにしています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	ケース会議を行っています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	成長や変化に合わせて、働きかけや取り組みをしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	計画的に活動内容を設定し、ポイントもおさえた内容が確認しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	集団活動を主に、個々の状況に応じて柔軟に計画を作成しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	課題や要点の意思統一をしてチーム実践を円滑に行っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	実施しています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の記録を定期的にモニタリングします。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	実施しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	75%	25%	年間方針に組み込み実施しています。	現状が変化していないかなど検証が必要です。ガイドラインを改めてしっかり見直します。

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	参画しています。	必要に応じて直接支援の多い児童指導員が同行することもあります。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎時やSNS、電話など細かにより密な情報共有をしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	50%	50%	受け入れていないが、要望など現状を学んでいきたいと思っています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	必要に応じて連絡を取るなどしています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	こちらからもアポイントを取り、情報共有をしています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	機会があれば積極的に参加しています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	行っていません。	機会があった場合は、積極的に機会を作りたいと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75%	25%	機会があれば積極的に参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や電話連絡など直接のやりとりを大切にしている共通理解を作っています。	
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	保護者の悩みや気持ちに寄り添います。	発達に関する視点や姿勢を伝えるなどできる支援を検討していきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	変更点を中心に行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	現状の範囲にとどまらず、制度や社会資源にも視野に入れて一緒に考えています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	保護者の共通に思っていることなどを意識して考えています。	父母の会などの活動を行っていませんが、求めているのであれば、接点となる機会を検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情受付担当を置き、早期に適切に対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	定期的ではないが、お知らせや冊子として情報発信をしています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	細心の注意を払っています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	個々の状況に合わせて工夫しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	75%	法人単位で実施しています。事業所としてはできていません。	事業所が得意とする分野でできることを検討していきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	25%	75%	マニュアルはありますが、周知が徹底できていません。	わかりやすい説明文などを作成して配布して事前に認識を共通にしていく必要があります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0%	100%	職員の意思統一を図っていますが、利用者との訓練は出来ていません。	わかりやすい説明文などを作成して配布して事前に認識を共通にしていく必要があります。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	研修への参加やチェックシートでの意識向上を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	保護者に十分に説明・了承したうえで支援計画でも確認しています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	50%	保護者からのききとりをもとに個別に対応しています。	医師の指示書などの保管までは行っていませんが、正確かどうか再度確認する必要があります。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	その都度の確認やまとめて傾向を振り返ることもしています。	